

展示スケジュール

オールドノリタケ

5. 13[土] – 6. 25[日]

協力：日本ポーセリン協会

オールドノリタケは日本陶器合名会社（現ノリタケカンパニーリミテド）が明治期から戦前まで欧米に輸出した陶磁器で、芸術的な絵付けや繊細な細工が特徴です。初期の森村組時代から日本陶器合名会社となった第2次世界大戦頃までの作品を集め、細密さで欧米人を魅了した“多彩”なオールドノリタケを紹介します。



盛上げ松笠とオウム文双耳花瓶

「それぞれの富士山」展

7. 1[土] – 8. 6[日]

共催：静岡県、静岡県文化協会

静岡県は山と海があり風光明媚な土地として知られており、特に富士山は霊峰とも呼ばれるように日本人にとって神聖な存在となっています。日々、富士山を仰いで暮らしている静岡県文化協会会員が創作した富士山の絵画作品により、日本人が抱いている富士山のイメージを紹介してまいります。



草木染蠟燭富士 鈴木健司 氏作



企画展

開港展

金子皓彦コレクション

8. 11[金] – 10. 1[日]

江戸時代末から明治時代にかけて海外に輸出された日本の工芸品の逸品を紹介します。日本の開国後に長崎や横浜の港から海外に輸出された陶磁器、金属器、漆器、芝山細工、七宝焼、竹細工、麦わら細工など多くの工芸品を紹介します。



陶胎七宝花鳥図花瓶

企画展

朝鮮通信使と清見寺

10. 7[土] – 12. 3[日]

特別協力：清見寺



仏殿に掲げられた明暦度正史 趙沅(翠屏)の扁額「興國」

徳川幕府にとって朝鮮国は正式な外交のある唯一、対等な国家でした。江戸時代に修好を目的に来日した朝鮮通信使は清見寺を6回訪問しています。本展は、清見寺の歴史とともに、残されたすべての詩書により朝鮮通信使と清見寺の善隣外交を紹介してまいります。



特別展

背守りと子どもの着物

12. 9[土] – 2024. 2. 18[日]

背守りは、子どもの産着の後ろ身頃の衿の付け根に色系の縫飾をつけて、厄除けのお守りとしました。色系で松や鶴などのめでたい縫い目をつける糸じるしや、刺繍、押絵の背守りもあります。展示では静岡で発見された背守りや、見本帖などを中心に、子どもの着物等により成長を願う風習を紹介します。



糸じるしの背守り



見本帖

水の絵

–「幻触」と「幻触」以後の鈴木慶則–

2. 23[金] – 5. 12[日]

清水に生まれた鈴木慶則は美術家グループの「白」や「幻触」に加わり、飯田昭二らとともに1960～70年代前半の美術シーンを牽引していました。本展示は主に1970年代から亡くなるまで描き続けた瑞々しい「水の絵」シリーズを紹介します。



無題 1992年

ギャラリーコーナー

①4・5月 比田七海
ペン画、アクリル画

②6・7月 ながい いちほ
油彩

③8・9月 クロダユキ
写真

④10・11月 由井瑞穂
書

⑤12・1月 小左誠一郎
油彩

⑥2・3月 法月健一
針金



②



④



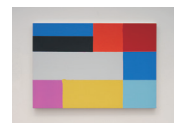
⑥



①



③



⑤